

## 講座「フォーカル・ジストニアからの帰還 その1」

日時：2013年4月2日（火）14時～16時  
会場：渋谷区文化センター大和田 練習室3  
講師：尾上昌弘（クラリネット奏者）  
聞き手：野瀬百合子（コンセール・パリ・トーキョウ）  
受講料：2000円（定員20名）  
主催：コンセール・パリ・トーキョウ

### 【お申込みについて】

受講申し込み受け付けは、3月7日（木）午前0時より。

\* この講座の受講は、先着順の受付ではありません。

受講ご希望者が多い場合は、フォーカル・ジストニアに悩んでおられる演奏家の方に優先的に席をご用意いたします。

フォーカル・ジストニアという言葉が音楽家の間に広く知られてきた現在、最も必要なことは「フォーカル・ジストニアからの演奏復帰は可能なことである」という情報と考え、演奏復帰を果たしたクラリネット奏者、尾上昌弘氏を講師に招き、その体験を語ってもらうことにした。

医師から「フォーカル・ジストニアは完治した」と告げられても、自身の感覚として「治った」と思えないという話を聞くことがある。演奏家にとって大事なものは、「医学的に考えて、症状が出なくなった」ということではなく、「実際に演奏復帰する」ということなのである。

フォーカル・ジストニアは脳の誤作動であり、精神的な疾患ではない。しかしながら、普通に演奏出来ていたことが出来なくなる為、その症状に依るショックは計り知れない。当然ながら気持ちが落ち込み、「なぜ自分だけ、こんなことに」と考えてしまう。一部マスコミが悲劇のヒーローを作り出すべく、フォーカル・ジストニアに「不治の病」のイメージを重ねていることも、気持ちの落ち込みを大きくしている。

2008年からこれまでに6回、フォーカル・ジストニアのリハビリ指導の講座を企画してきたが、講座受講者のほぼ全員から「この症状が私だけでないことが分かり、とても救われた」という言葉をいただいた。

リハビリを続ける為には、フォーカル・ジストニアについての正確な情報獲得と共に、同じ症状を持つ方同士の連帯が必要と痛感し、講座終了後数カ月経ってからの「情報交換会」も行ってきたが、今回、尾上氏に3年に亘る演奏復帰への道筋を聞く講座を開催することにした。

今後も演奏復帰について語ってくれる人が続くよう、講座「フォーカル・ジストニアからの帰還 その1」というタイトルを付けた。

尾上氏は、演奏復帰後の2011年に開催された「第7回大阪国際室内楽コンクール」の管楽アンサンブル部門に於いて、日本人団体の史上最高位である第3位を獲得した「木管五重奏団 アンサンブル・ミクスト」のメンバーである。

そんな彼が、フォーカル・ジストニアのリハビリをしながら演奏活動を続け、演奏復帰に至ったという事実は、決して少なくないフォーカル・ジストニアの方に大きな勇気を与えることになると思う。

尾上氏は、2008年頃にフォーカル・ジストニア症状に気付いて病院に通い、2009年6月と2010年7月にパリの「音楽家の為のクリニック」所属のイザベル・カンピオンの講座を受講している。

#### <当日スケジュール>

14時～15時 尾上昌弘氏の体験を聞く

15時～15時半 質疑応答

15時半～16時 パリの「音楽家の為のクリニック」でのリハビリについて  
(講師：野瀬百合子 コンセール・パリ・トーキョウ)

#### <尾上昌弘氏経歴>

香川県出身。15歳よりクラリネットを始める。香川県立坂出高等学校音楽科卒業。東京藝術大学音楽学部を経て、同大学大学院修士課程修了。クラリネットを高畑直美、山崎盾之、藤井一男、村井祐児、山本正治、三界秀実諸氏に師事。

また木管五重奏団 アンサンブル・ミクストのメンバーとしても活動している。同団体で2011年、第7回大阪国際室内楽コンクール管楽アンサンブル部門第3位(同部門における日本人団体の史上最高位)。

音楽家の疾患であるフォーカル・ジストニアが右手に発症したのが、2008年頃である。当初は演奏困難な状態にまで陥るが、演奏活動を続けながら治療に取り組み、現在は演奏復帰している。